

電子黒板 + デジタル教科書 で何が変わる？

新課程から始める！ 新しい授業スタイル

—— ある小学校の教室にて

教室の片隅に設置された1台の電子黒板。そこには1枚の航空写真が映し出されている。その中心にあるのは小学校の校庭だ。そこには現在地であることを示す1本のフラグが立っており、端のほうには子どもたちにはおなじみの遊具がしっかりと確認できる。

そのとき、カチカチっというクリック音が聞こえたかと思えば、子どもたちからドッと歓声が上がると、航空写真の角度がみるみる高くなる。日本列島全体が電子黒板いっぱい映し出され、高度はさらに上がって、ついには日本列島を中心に東アジア全体が大きく映し出される。日本とはなんと小さな国か。子どもたちが地理的事実を実感する瞬間である。

次に先生がおもむろにコンパスを取り出す。もちろんデジタルコンパスだ。先生がそのコンパスの軸脚を大阪に据え、もう一方の脚を札幌まで伸ばす。大阪-札幌間を半径として、コンパスがぐると円を描く。すると、その円の中に、朝鮮半島から中国の上海、香港までもがスッポリと収まってしまうのだ。海を隔てているとは言え、隣国とはなんと身近な存在なのか。子どもたちが地理的事実を実感する、本日2度目の瞬間である。

—— 保護者・生徒ともに驚いたのだが…

ある小学校での公開授業のようすをつらつらと書き綴ってしまいました。要するに、デジタルデバイスを活用した上述の活動を目にした瞬間、その場にいた保護者と生徒の両方がたいそう驚いたのです。そして、その驚きの観点は、実のところ、保護者と生徒とで大きく異なっていました。保護者は日常的な学習空間にあたりまえのごとく登場するデジタルデバイスに驚き、一方の生徒はデジタルデバイスを活用してダイナミックかつ直感的に伝えられる学習内容そのものに驚いていたのです。こういった授

業スタイルをあたりまえのことと考える生徒たちが、そう遠くない日に高校にも入学してくるのでしょう。

「教育の情報化」ということばをよく耳にします。現に、新しい高等学校学習指導要領でも、デジタル機器の積極的な活用が強く求められています。それでは、この「教育の情報化」のねらいとは、いったい何でしょうか。ひと言で言えば、新しい教具を活用して、生徒の主体的に学習する能力を育成する、ということになるのでしょうか。すなわち、生徒が教員から与えられる情報を受動的に吸収するだけでなく、必要とする情報を自ら積極的に収集し、整理し、そして発信できるようになることを目指しているわけです。その実現に向けて、パソコンやインターネットは非常に有効な教具の1つと位置づけられ、私たちにはその積極的な活用が求められているわけです。

最近では普通教室に電子黒板を導入する学校が見られるようになりました。言うまでもありませんが、そういった学校においても、授業のすべてがパソコンで行われているわけではありません。IT授業を実践している先生の多くは、そうすることで生徒の理解が深まるどころ、そうすることで時間短縮につながるどころなど、効果的なポイントに絞ってパソコンをうまく活用されているのです。これはまさに、「目新しいから使う」ではなく、「効果的だから使う」という発想と言えます。

近年のIT機器の進化には目をみはるものがあります。高機能化はもとより、操作方法の簡略化により、その敷居は確実に低くなりつつあります。英語科における「教育の情報化」実現に向け、皆さんも最初の一步を踏み出してみませんか。

電子黒板 Q & A

Q：電子黒板で何ができますか？

A：パソコンのデスクトップ画面がそのまま表示できます。ペン機能を備えたものが一般的で、電子黒板上への書き込みも可能です。

Q：電子黒板にはどんな種類がありますか？

A：大きく分類して2つのタイプがあります。1つは、入力と出力の両方の機能を備えたタイプです。このタイプはパソコンと接続するだけで使用できます(※)。一般的に「一体型」と呼ばれています。もう1つは、入力機能のみを備えたタイプです。このタイプではパソコンに電子黒板とプロジェクターの両方を接続し、プロジェクターを通して電子黒板上に投影することになります。このタイプはさらに「ボード型」「ユニット型」などに分類され、比較的安価なものもあります。

※ 各種ドライバーのインストールが必要です。

Q：電子黒板があれば、すぐに授業ができますか？

A：電子黒板はあくまでも入力・出力装置にすぎません。従って、学習素材は別途用意する必要があります。Microsoft PowerPointなどでコンテンツをご用意される先生方が多いようです。文部科学省の『英語ノート』は有名ですが、民間の教材発行会社からも、いわゆるデジタル教科書が発行されつつあります。

Q：デジタル教科書で何ができますか？

A：機能はさまざまです。英語の教材の場合、書籍の紙面が表示できるのはもちろん、その上で簡単なクリック操作で音声を再生したり、板書を表示したり、活動素材を呼び出したりできるものが一般的です。デジタル教科書は電子黒板と組み合わせて活用することで、その効果を最大限に引き出すことができます(→pp.14-15)。

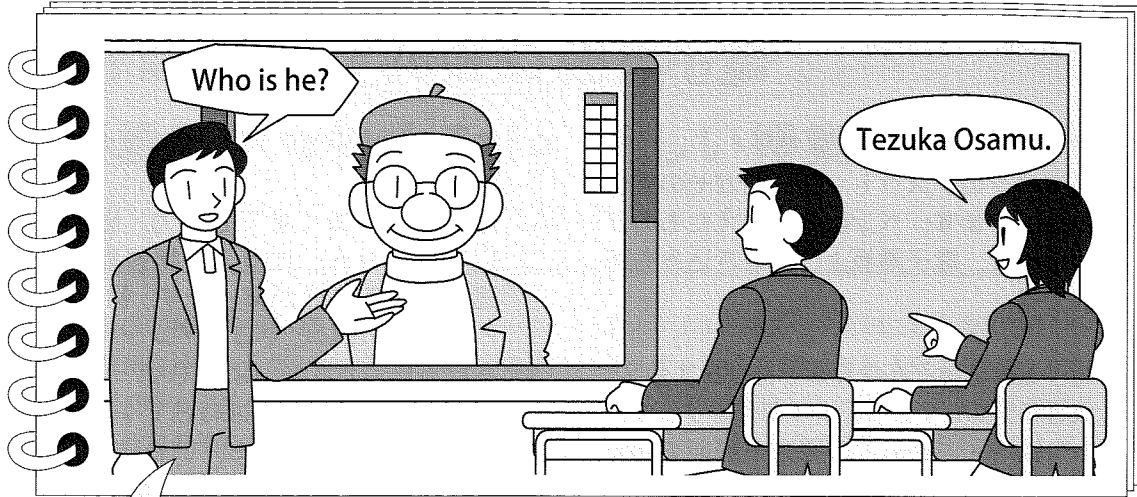
(数研出版 英語編集部)

Studyaid D.B. が
授業をより楽しく
よりわかりやすく
演出します

Studyaid D.B. シリーズ デジタル教科書
を活用した授業のご紹介

http://www.chart.co.jp/stdb/eigo/e_case.html ▶





英語で授業に効果!

写真や図表など、教科書本文と関連する資料を提示し、発問へと展開すれば、

生徒が英語で発言する機会

をより多く確保できます。

新課程から始める!

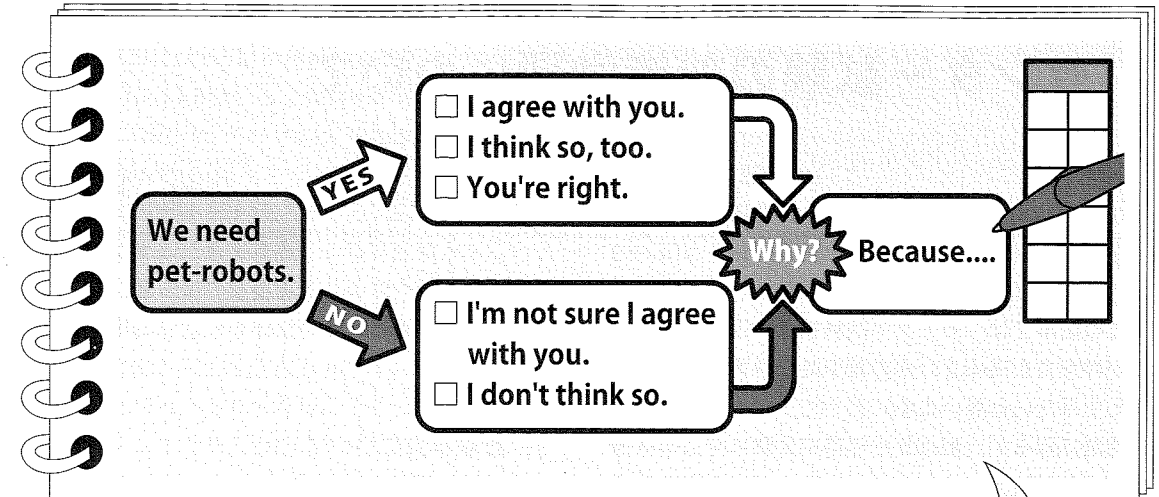
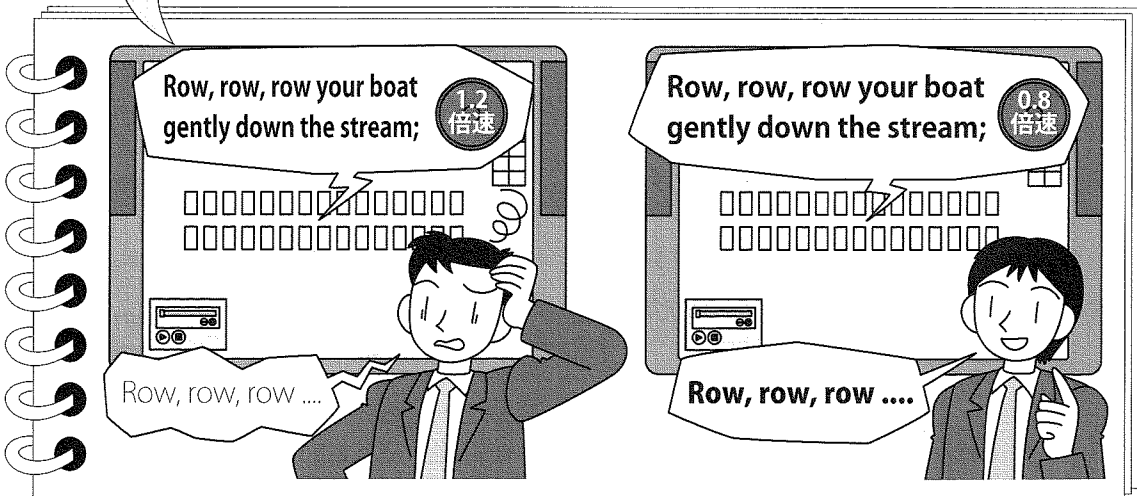
繰り返し学習に効果!

豊富な素材と手軽な再生機能を使って、多様な音読活動を繰り返し展開すれば、

教科書本文や例文の定着

が期待できます。

新しい授業



電子黒板+デジタル教科書で

何が変わる?

言語活動に効果!

敷居の高い表現活動でも、展開パターンや表現のヒントなどを瞬時に提示すれば、

生徒に積極的な発言を促す

きっかけが与えられます。

スタイル

時間短縮に効果!

板書や資料提示、答え合わせに費やす時間を短縮すれば、

生徒主体の活動に多くの時間

を充てることができます。

